

TRICK or TREAT

とくおあといと

2013年・SEP

登場人物

南瓜 アキ
薩摩井 モエ
松 タケ子
茄子 (カコ)
梨花 (リカ)
聖 節子 (ひじりせつこ)
ハロウィンの仮装行列たち (浮動)
ほか、ちよつとだけ
女王とか
乳母とか
侍女とか
謎の家庭教師とか
よくわかんないのが出てくる

序

いやー、結構困った。人数は多く出してあげたい。時間は決まっている。どしたもんかねー。とりあえず秋なので、今年はハロウィンの話をやろうと思った。なんか色々仮装したハロウィンの行列(台詞上ハロと表記す)が踊りながら通るの。あと、歌とかあってもいいかなと思うの。

ハロ全 ♪『おかしちよだいSONG』

おかし おかし おかし
おかしをちようだい
くれなきや みんなで イタズラするぞ

そこへ、南瓜アキが現れるのだ。んで、その子の前にみんなが群がってきます。

ハロ全 (両手を広げて前に出しつつお菓子をねだる)「とりつく、おあ、とりーと」!

アキ はあ?

ハロ全 だから、「とりつく、おあ、とりーと」だよ!

アキ 何だそれ英語か? 悪いけど、何言ってるんだかわかんねえ。

ハロ全 もっとはっきり言うかね、とりつく、おあ、とりーとの、とりーとの方! つまり、お菓子ちょうだい。

アキ バカかお前ら、学校にお菓子持ってっちゃいけないんだぞ。んなもん持ってるわけないだろ。てか、持ってもやらないけどな。

ハロ全 (ものすごく取り乱してみましよう) えー!?

アキ いいからそこどけての!

ハロ全 お菓子くれなきや、通さないよん。

とりあえず、みんなでアキに襲いかかるんだけど、返り討ちに合うの。

ハロ全 (泣く) ひえー痛いよー!

アキ おととい来やがれてんだ!

ハロ全 こうなったら、とりつく、おあ、とりーとの、とりつくの方だ! 覚えてろよ!

1

で、何か負け惜しみを言いながらハロウィンの行列は去っていくのでした。気がつくとき、そこはどっかの学校の一教室。ここの転換は、パネルで対応するよ。何か生徒たちがハロウィンの格好をして、飾り付けに忙しく動いているのでした。アキ、その様子を見て啞然。

アキ 何だこら?

カコ (魔女っぽい三角帽子をかぶっている) 見ればわかるでしょ。飾り付けですわ。

モエ (よくわかんないけど、印刷物を丸めたのを持って) いやっ、待ってました! 相変わらずお早いお着きで!

アキ どう見たって完璧に時流に乗り遅れた気がするぞ。

カコ あら?

アキ 何だよ、俺の顔に何かついてるか?

タケコ (女王様っぽいマスクをしている。紐かなんかの先つちよを示しつつ) 乗り遅れたと思うなら、早くあなたも手伝いなさいよ。いいからそこ持って!

アキ (持つ) だから、何のパーティーだよこれは?

モエ 状況が飲み込めなくても、何のためらいもなく持つんすね。さすがは師匠、器が大きい!

アキ お前、それちつともほめてねえぞ。あと、師匠じゃねえから。

リカ (棒つきキャンディをくわえ、悪魔の尻尾をつけている。脚立を指でさしつ) (じゃあ持ったままそこ登ってみよう!)

アキ (脚立に足をかけながら) 朝っぱらから何やらす気だよ? 授業始まつちまうだろが。

モエ そのも平然とやるんすね! も、人としての格が違うっつーか何っつーか、心の広さを見せつけたところで、ついでにこれかーく一読していただけないかと。(手にした印刷物をさしだす)

リカ 演劇部うるさいよ。

アキ 読まねーよ。漢字と数字とアルファベットはキラインなんだ!

タケコ 授業といつても、あなたの場合、どうせ寝てるか弁当食ってるかどっちかなんだから、関係ないでしょ。いいから言われた通り登ればいいのよ。

モエ でもこれ、主役のイメージ、師匠にびつたりなんすけどねー...

アキ (モエの手から台本を奪い取り、モエの頭をばーんと叩く) 弟子をとった覚えはねえ。師匠と呼ぶなっつってんだろ! 台本なんざ読むつもりないし、絶対出ないからな!

タケコ そんなのヒマな時に、二人で相談してちょうだい。

カコ (台本を拾ってばらばらめくりつつ) 私は、ちよつと興味ありますけど。

リカ (のぞきこむ) どれどれ? へー、主役ってお姫さまなんだ。かぼちゃんかねーって、え!?

アキ 柄じゃないって言いたいんだろ? そんなのこつちだつてわかつてんだよ!

タケコ この肉体労働以外取り柄のないがさつ女がお姫さまだなんて、私ならともかく、あり得ないわね。

モエ 師匠がダメなら、なんとお呼びしたら。もしかして、(ぼ) か、かぼちゃんか? ..?

アキ かぼちゃ違うね。みなみうり!

カコ 仲がよろしいんですのね。

アキ 良くねえよ!

モエ そんな、滅相もない! 私が一方的に師匠の男気に惚れてるだけで、仲がいいだなんて、そんな、叱られちゃいますう! ..でも、そう見える?

リカ (かぼちゃんの帽子をアキの頭に乗せつつ) じゃあついでにこれもかぶつてみよう!

カコ (指差して笑う) キヤハは! かぼちゃ、かぼちゃ!

タケコ かぼちゃや頭のかぼちゃやが頭にかぼちゃなんて、はまり過ぎ。

アキ だからあ、かぼちゃじゃねえ、俺は、南瓜(みなみうり)だ!

モエ そこも言われるがままかぶるんすね!

アキ 見てわかんないのか? 両手ふさがつてんだよ!

モエ 失礼しましたあ! 不肖、この薩摩井もえ、足を支えさせていただきます!

アキ それ、俺の足。持つなら脚立の足だろ。

モエ も、申し訳ございません!(すりすり) あまりに魅力的な脚線美に、つい誘惑に負けてしまいましたあ! この私の薄汚れた手で、事もあろうに師匠のおみ足に触れるなど、あつてはならない事です!(自分で自分の手を叩く) バカバカ、モエのバカ!

カコ 私も私も(なでなで)!

リカ どうせだから、スカートまくっちゃえ!

アキ バカ、やめろつて! リカ、お願いだからそれはやめて!

リカ かぼちゃんたら、かーいい声だしちゃつて。南瓜アキ十五歳、お姫様モード入つてまーす、みたいな?

アキ 悪魔かお前は!?

リカ せいーかい。今日のリカは、悪魔でーす。だから、悪いことでも容赦はしないぞ。じゃあもえちゃん、一緒に行くよ。せーの!

モエ ダメです! それはダメ! そ、そんな、師匠のばんつを白日の元にさらすなど、私にはできない!

リカ 知るかそんなん! いいから景気よく行つたらんかい!

アキのスカートの裾に手をかけるリカだったが、そこでピタリと止まる。震える手で口から棒をひっこ抜く。

カコ しまったあ! アメが切れたあ! お菓子! お菓子がないと私.....!

リカ いけない!

カコ (もうとにかく低い声を出せ) とりつく、おあ、とりーと! ..

リカ はあ?

アキ (突然アキに襲いかかる) とりつく、おあ、とりーと!

アキ しっけーんだよ! (どごっ!)

モエ 師匠、お怪我は?

アキ 俺は大丈夫だからよ、それよりリカの方を..

リカ (起き上がる) お菓子.. お菓子よこしやがれ!

カコ 全、しょうがないですわね。ほい。(ポケットから新たなキャンディを取り出しリカの口に突っ込む)

リカ あれ、私、何やつてんだろ? 気のせいかな、なんか、腹のあたりが痛いぞ。

カコ もう、しっかりとしてくださいよ！リカがお菓子されるとおかしくなっちゃうの知ってるでしょ。

アキ す、すまねえ、さつきも何か、似たような連中であって、あんましつけーもんで、つかつとなつちまつた…。

リカ そうだ！思い出してきたぞ！確か、アキちゃんのスカートを…！

アキ そこは思い出さなくていい！

タケコ (ことさらに足を強調したポーズを取りつつ) あなた達、いい加減にしなさいよ！ちつとも仕事が進まないじゃないの！

カコ さつきの、根に持つてるんだ…。

モエ まさか、自分の方が足が綺麗だと主張してるんすか…？

アキ 足の話はもういいだろ！ここは珍しくタケコの言うことが正しいと、俺も心の底から思う。

タケコ そう。足なんて、私は全然気にしてないから。ここは私が脚立押さえてあげましょう。だからあなたはさつきと登りなさい。

アキ お前が？

タケコ (びくびく) 早くしないと、わかってるわよね。いつ心のバランス崩して脚立ひっくり返すかわからないわよ。

アキ 相変わらず性格悪いな…。

タケコ 綺麗な花にはトゲがある、とでも考えてみようかい。

アキ (脚立を揺すらんばかりの勢いで) そのぐらい自分で考えなさいよ！頭からつぶか？からつぶのかぼちや頭か？ちよつと足が綺麗かなんか知らないけど、頭からつぶじゃね…。

モエ やつぱし、根に持つてる…。

リカ タケちゃんこわーい。

カコ いや、あなたはそれ言えないです。

タケコ 頭使って言うてるでしょ！何のためにそれ持つて上がったのよ!?その手に持つた紐は何!?ただの飾りかい！

カコ おっしゃる通り。

リカ まさに、ただの飾りなんだけどな。

モエ 師匠、しっかり！

アキ そうか！この紐をだな、ここに結べってことか!?

タケコ そんなのサルでもわかるわよ。まさか、結び方がわからないとか言わないでよね。頭からつぶに輪かけて、手先不器用なことないわよね。

アキ そもそもそれが一体何だつてんだよ、さつきの連中といいお前らといい、わけわかんねえつての！

カコ ハロウィンですわ。

アキ カフェインとかココアインの仲間か？

タケコ 十月三十一日、すなわち万聖節の前日のこと！

リカ とりあえずね、お化けの仮装して回るんだよ。そうすると、お菓子ももらえるんだ。だから、とりつく、おあ、とリーとなの。

カコ まーかいつまんて言うんですけどよ、「トリック、オア、トリート」と言うとお菓子ももらえる、みたいなもんです。

アキ それとこれと何の関係があんだよ？

タケコ そんなの知らないわよ。ただ、先生が「今日はハロウィンだから教室の飾り付けをしておけ」つて、そう言つたからやつてたの！

アキ あー！

モエ どうかしたんすか師匠？

アキ わかつてきたぞ、それであいつら、「とりつくおあとりーと」とかつて、何度も何度も…。

タケコ 何の話よ？

アキ だからよ、ここに来る途中でお前らみたく妙な格好した一団に取り囲まれてよ、

モエ それでどうなつたんすか!?

アキ あんまりしつけーから、ぶつ飛ばしてやつたぜい。

モエ 師匠、相変わらずやるつすね！

リカ えー、そんなことしたの？

カコ それはちよつといかがなものかと。

タケコ 全く、これだから、かぼちや頭は。いいこと？物を知らないつてのは罪なの。いたいけな子供に何てことするのよ！

アキ そ、そうなの？

カコ でも、これで合点がきました。だって、あなたの肩に、ついてるもの。

アキ え!?な、何が!?

カコ 「トリック、オア、トリート」すなわち、「お菓子くれないとイタズラするぞ」つてことですよ。気をつけた方がいいわね。

アキ よせよ、カコ。何かしやれになんねーじゃないかよ。教えるつて！

アキ 節子の声

アキ お、おい、ちよつと待てお前ら…！

その声を聞くなり、アキを脚立上に残したまま、一同、無言にて席につく。聖節子先生が入ってくる。

節子

みなさん、おはようございます。飾り付けは順調ですか？

タケコ はい、南瓜さんのせいでだいぶ手間取りはしましたが、まあ大体。

節子 そうですか、そいつはよござんした。で、その南瓜さんは？

一同 (一齊に指差す)

アキ (大きく手を振る) ここだよ、ここ！

節子 教師のこの私が話をしていっているというのに、そんな高い所から私を見下ろしているなんて、あなた、一体どういう神経しているの？

アキ どうもこうも、成り行きで取り残されちゃったんだから、しょうがないだろ！

タケコ 先生、この際南瓜さんはほつといて、授業進めてください。どうせ聞いても

わからないんだから。

節子 そうね。今日十月三十一日は何の日か知っていますか？ちなみに私は十月三十一日生まれ

タケコ はい、先生。今日は、ハロウィンです！

リカ ですから、節子先生のおっしゃる通りに朝早くから装飾を…。

節子 …せ、正解。あなた達、人の話を真面目に聞いているようで、実はよく聞いてない、それでいて、聞いているようでもあるのですね。今日はハロウィンです。ですから…。

リカ とりつく、おあ、とりーと！

節子 そう、その通り！ハロウィンと言えば、「トリック、オア、トリート」。です

タケコ けドリカさん、それは私に向けられるべき言葉なのでしょうか？私とあなた達は教師と生徒、お菓子をねだったり与えたりするような、そんな関係であっていいはずはありません。ましてや私は、蠍座のA B型なのです。私もあなた達の気持ちに応えたい、けれど心を鬼にして、敢えて命じます。街へ出よ！

タケコ おっしゃっている意味がよくわかりませんが。

節子 つまりですよ、今日の学習は、「ハロウィン実習」とします！

モエ はあ？

節子 今日はハロウィン、私にはさすがにちよつと無理かも知れませんが、あなた達ならできるのです。街へ出て、道行く人に片っ端から声をかける。「トリック、オア、トリート！」あらかじめ断っておきますが、私がお菓子食べたいから言っているのではないですよ。これは、社会勉強です。一年でこの日限定の、まあ女性というのはい限定という言葉に弱いものですが、それはさておき、

これこそ最高のキャリア教育じゃありませんか。というわけで、全員起立！

一同 (立つ)

節子 さあ行きなさい。行って、街中のお菓子を集めていらつしやい。「トリック、オア、トリート！」

一同 (アキを除く) とりつく、おあ、とりーと。

節子 声が小さい！

一同 (アキを除く) とりつく、おあ、とりーと！

節子 そう、それでいいのですよ、私の可愛いお菓子集め隊の諸君。そしていつの日か、私の胸に帰っていらつしやい。両手一杯のお菓子を抱えて。出動！

アキを脚立上に残したまま、他の一同、去る。ハロウィンの行列たちが怪しく

舞いながら現れる。この(ここに限らずすべてですが)場面の移動は、例によってキャスターパネルの移動により行います。アキの四方にパネルを並べますよ。

アキ 何だかんだ言って、結局自分がお菓子欲しいってこと…？

ハキ さつきはよくもやってくれたね。

アキ 何の真似だお前ら！

ハキ 言ったでしょ、とりーとじゃない方だ。だから、今日一日、自分を見失ってもらうよ。今からキミに、おしとよかの魔法をかけるからね。あははは…！

2

ケタケタ笑いながらハロウィンの行列は去って行くよ。そこへ、二人の女性が慌てて駆けこんでくるのだ。これは、行列の中の誰かが演るか、専門に一人置いてもいい役だよ。

侍女 姫様！いました。たつた今姫様を発見いたしましたあ！やっぱりこちらでしたか…。

乳母 姫様、危ないから北の塔に登ってはいけません、あれほど申し上げたではありませんか！それなのに、また私めの忠告を守らず、何と無茶な…！

アキ お前、一体誰だよ？つーか、姫様って俺のこと？！

侍女 またそんな乱暴な言葉遣いを！私が女王様に叱られるのですよ。少しはこの私の身にもなってくださいませ。

乳母 全く親の顔が見たいわい。なーんて育てたの私だけどねー。

アキ お前に育てられた覚えなんかありません。

女王 聞こえていましたよ。恥ずかしながら、私がおのじや馬の母ですが、気がつく、そこに女王様。一人の女性を連れてくる。ほんとは教鞭なんだけど、それじゃ面白くないから、孫の手なんかを持つところ。

女王 そんなに私の顔が見たいですか？毎日見ているはずですが、まだ足りないかと？

乳母 こ、これはこれは女王様！失礼いたしましたあ…！

女王 全く血は争えないものですね。私も小娘時代に、戯れにこの塔に登ったりしたものです。そんな時はちよつとへまして、確か百年ほど眠りました。

乳母 あの時、まっこと心配いたしましたあ…。

アキ お前ら歳いくつだよ？

教師 陛下、それではあの方が？

女王 いかにも。さあ娘よ(アキを見上げる。アキ、怪訝そに自分を指差す。それを見て大きく頷く)、

教師 なるほど。これは鍛え甲斐がありそうだ。

女王 娘よ！さあ下りてきて、無事な顔を見せてちょうだい。今日はあなたに、大事な話があります。

侍女 (慌てて脚立を支える) 姫様どうぞお気をつけください！

アキ (できたら飛び降りる) 大丈夫だって、このくらい。

教師 (手にした孫の手でアキの足をびしつと叩く) いけません！王家の女性たる者、3センチの段差を越えるにも、殿方の手を借りるようではなくてはね。

アキ 姫様に何をなさいます！?

乳母 何言ってるんだお前？

教師 (やならんやんなくてもいいけど、孫の手でアキの唇を横に引つ張る) 「お前」じゃなくて「あなた」！それから、私のことは以後、「先生」と呼ぶように。

女王 娘にはまだ事態がよく飲み込めていないようですね。いいからおかけなさい。姫だの娘だのつて初期設定から、すでに飲み込めてないんだけど…。

乳母と侍女、とりあえずそこらに残ってた学校イスを慌てて持つてくる。しばらく座るアキ。

教師 (びしつ) 足を広げて座るんじゃないやありません！

アキ ……。

女王 (乳母と侍女に) あなたたちは、下がってよろしい。

侍女 でも、それでは姫様が…！

女王 いいからお下がりになさい。これも王家に生まれた者の宿命、おわかりですね？

乳母・侍女 ははっ。

乳母と侍女、深々と礼をして去る。これで二人の出番はおしまいだよ。

女王 (アキに) 姫よ、よくお聞きなさい。

アキ あのー、すごい初歩的な質問ですけど、姫って俺のこと？

教師 (びしつ) 女王様の御前ですよ！あと、自分のことは、「俺」ではなく「私」と言いなさい！

女王 わ、私が、お姫様なんですか…？

アキ 何を今更わかりきったことを。あなたも今年でもう十五になるのですよ。なのにあなたときたら、相も変わらぬおてんば三昧、このままにはしておけません。そこで今日からこの者が、あなたを王家の姫にふさわしい人間に鍛え直します！

アキ はあ!?

教師 はしたないですよ、そんな大口を開けては！

女王 この者は、諸国を旅し、ありとあらゆる教養を身につけたエリート中のエリートです。今日から言葉遣いから立ち居振る舞い、作法、語学、ダンス、果ては武術まで厳しくあなたを鍛えます。

アキ すでに十分厳しくされてるような気がするぞ。

教師 数々のご無礼お許しください。しかし、私は、女王様の勅命を受けております。今後とも、どうぞよろしく。

アキ (びしつ) 何ですか、その気のない返事は？

こうして、アキに対する教育が始まる。あんま時間かけたくないのよ、次の女王の台詞中、早送りして授業は続く。このあたりから、ハロウインの行列たちがうろちよろしている。

女王 我がばんぶゝきんぐだむの娘は、十五で王子さまのパーティーに出向き、そこで見初められ、十六で婚約、十七の春には、魔王を倒すために冒険の旅に出なくてなりません。そして、十八で見事生還、世界に平和をもたらした英雄として、国民に祝福されて戴冠式を迎えるさだめなのです。今はつらいかもしれませんが、あなたならきつとできる！私は、信じています。

ハロ1 (モエの持つた台本を開いている) 何か、ちよつと違うな、これ…。

ハロ2 いいのいいの、細かいことは気にしない！

教師 (授業は終わったらしい。大きく肩で息をしている) あなたは、これまで私が見た中で、最も粗暴で口が悪く、手のかかる生徒でした。でも、もう私から教えることはありません。

アキ ありがとうございます。先生。私、もう大丈夫ですわ。

女王 というわけで、今日は王子さまの誕生パーティーです！

アキ では行ってまいります。お母様、いいえ、陛下。

3

女王と教師、去る。ハロウインの行列たちがパネルを動かし始める。何のことはない、元の教室の場面に戻すんだよ。アキの視線の先には、後ろ姿だが一人の人物が。駆け寄るアキ。

アキ 王子さま、お会いしとうございましたわ。お誕生日おめでとうございます！

アキ (振り向き、抱きしめる) あ、ありがとうございます！そんな風に言ってもらえて嬉しい！って、南瓜!?

アキ あなたは、節子先生…？ごめんなさい、人違いですわ。私、てつきり王子さまかと…。

アキ 南瓜、あんた、王子さまとかそんなガラかって！ま、私も同じか…。

アキ 何のことでしようか？

節子 今日占いで、今日がバースデーのあなた、夕暮れの教室で運命の王子様とのステキな出会いがあるかもしれないって、真に受ける私も私だけど、それにしてもあんた、何かいつもと感じが違うわい？

アキ そうですか？私は普段通りですけど。

節子 それそれ！大体あんた、そんな丁寧な口のきき方しないでしょ！何か企んでるんじゃないでしょうね？

アキ 何も企んでないでいせんわ。

節子 怪しい…（アキの両肩をがっつかむ）いいから私の目をよく見なさい！アキ ????

と、そこへ、ようやく、タケコ、モエ、リカ、カコが帰ってきました。

リカ （歌いながら）♪おかし〜 おかし〜

タケコ ただ今戻りましたわ。

モエ し、師匠！それに先生、二人で一体何やってんすか!?

カコ 不潔。

モエ （二人の間に割って入る）か、顔！顔近いっすよ！まさか、師匠と先生がそんな関係だったとは…！

節子 違うのよ、これは！

アキ 先生がいきなり肩をつかんで、「私の目を見なさい」って…。

モエ あんた、教師のくせして、師匠に何しようとするんすか!?! 師匠怪我はないっすか？他に何かやらしいことかされなかつたすか!?!

節子 私はただ、南瓜の様子が何かおかしいから、確かめようと思って…！

アキ 私、別にやましいことなんてありませんの。ね？

モエ 師匠の言う通りっす！師匠のせいにするなんて、往生際が悪いっすよ！って、モエ・タケコ・リカ・カコ やっぱおかしい！

節子 でしょ？だから私は何も悪くないって…。

リカ かぼちゃん、今、自分のこと「私」って言ったよね？

アキ いけませんか？

タケコ いいわきやないでしょ！あんたみたいなかぼちゃ頭が、どの面下げて「私」なのよ!?!身の程を知りなさい！

アキ そんな事おっしゃられても、困りますわ。「私」は「私」ですもの。

カコ 南瓜の一人称は、「オレ」で決まりなんですけどね。

アキ 「オレ」だなんて、冗談でしょ。そんなはしたない。

モエ 師匠、一体どうしちゃったんすか!?!
タケコ 何の魂胆があつてか知らないけど、あんたまでそんなお上品なしやべり方したら、私とキヤラかぶるでしょうが！気持ち悪いからやめなさいっての！

カコ （きつぱり）それはいいです。

リカ 品が良くなつても、たけちゃんとの相性は良くならないって…（どうやらまたお菓子が切れたらしい）お、お菓子よこせえ…！

アキ リカさん、痛いですわ、おやめになつて！

モエ しっかりして下さいよ師匠！モエが惚れた、あの男らしく勇敢で、それでいどこか気高い師匠はどこ行っちゃったんすか!?! こんなの師匠じゃないっすよ！

カコ （慌ててリカの口にキャンディをほりこむ）

リカ いやー、それはそれでちよつと持ち上げ過ぎかなー。

アキ ごめんなさい。私、あなたのおっしゃっている意味がよくわからなくて。

モエ 謝らないでくださいよお…！そこで謝ってどうすんすか？いつものように一喝してくださいよ。「ふざけんなバカ野郎！」って、モエを叱って下さいよ！そんな師匠、見たくないっす！何っ？か、キモいっす…！

アキ キモいだなんて、そんな…。

カコ モエさん、少し落ち着きなさいよ。

モエ それ、そうだ、保健室、保健室行きましょう、師匠。保健室で診てもらえば良くなるかも。いや、むしろスクールカウンセラーの方が適任かも…。大丈夫、大丈夫っす。私は何があつても、師匠を見捨てたりはしませんからね。いいっすよね、先生？

節子 あー、まーしようがないわね。

アキ 嫌ですわ。私はいたって健康ですことよ。

リカ だから、それが変なんだって。

タケコ （バケツを持ち出してくる）保健室だの、カウンセリングだの甘いこと言つてんじゃないわよ！どうせただの悪ふざけなんだから、顔洗って出直しなさいっての。こんなの頭から水かぶればすぐにポロ出すに決まってるんだから！

リカ まーまーまー。

モエ やめて下さい、そんなひどいこと！

カコ あの南瓜さんが、ちよつとふざけた程度でここまで口調や態度が変えられるとは思えせんわ。

タケコ じゃあどうしろつてのよ？

モエ 師匠はきつと、悪い病気なんすよ！だから、私たちが暖かくみまもつてあげないといけないんす！

タケコ そんなの私には関係ないわね。唯一はつきりしているのは、お嬢様キヤラはクラスに二人もいらないうってことよ！

カコ ここまで百八十度ころつと性格が変わるからには、それなりの理由があるかも知れなくてよ。

リカ リカみたいに、お菓子食べたら元に戻るとか！

カコ それはいいでしょう。むしろ…。

節子 そうよ！お菓子！

アキ お菓子がどうかしましたか？

節子 師匠お…。
モエ 南瓜のせいでころつと忘れてたけど、あなたたち、お菓子はどうしたのよ？

タケコ ちゃんともらつてきたんでしょね？今日一日の成果はどうなつてるの？

リカ それがその…。

カコ うん、集めたよ、いっぱい！キャンディでしょ、ガムでしょ、かぼちゃプリンに、かぼちゃパイに、あとかぼちゃケーキ！

カコ ほとんどはリカさんが食べてしまいましたけどね。

節子 何よそれ？あんたたち今日一日、まともな授業も受けずに何やってたの!?

節子 だって先生、それが最高のキャリア教育だって言ったじゃないすか!

節子 そんなの、お菓子持って帰ってなんぼでしょうが!

節子 お菓子が必要なのでしたら、パティシエを呼んで作らせましょうか?

節子 南瓜い！どこにパティシエがいるのよ!? あんた、ろくにお菓子集めもしてなくせして、ふざけたこと言ってるんじゃないわよ! おふざけはその喋り方だけにしなさいって!

アキ そんな、私が一体何をしたと…?

節子 いいからあんたは、そこでしばらく反省してなさい!

アキ (泣く) そんな、ひどいわ…。どうして私が叱られなくてはならないの…?

モエ 師匠、泣きたいのはこっちつすよ…。

リカ 何か、ちよつと気の毒だね。キモいけど。

カコ 今はそつとしいてあげましょう。

節子 あんたらあんならよ! 授業がわりに一日歩き回って、食べちゃいましたで済むと思つてないわよね。せつかくの私の誕生日、じゃなくて、ハロウィンは何だと思つてるの?

タケコ あの、お言葉を返すようですが、私たちだって、一生懸命やっただけです。

節子 言つたわよね、街中のお菓子を集めていらつしやいて。それがここじゃない以上、何を言つても説得力ないんじゃないの?

カコ ないわけじゃないんですよ、ほら。(小さな包みを取り出す)

節子 何よ、それ?

タケコ 確かに、私たちが集めたお菓子は、もうほとんど残っていません。リカの為に少しは必要ですしね。でも、それとは別に、私たち、お小遣い出し合つて買ったんですよ。はい(包みを渡す)。

節子 これって、もしかして、私の為に…?

リカ お誕生日おめでとう、先生! ごめんね、私ばかりたくさん食べちゃって。

節子 でも、それだけは、カコちゃんに大事に隠しといてもらった。

タケコ 何でそれをもっと早く言わないのよ!?

節子 言うヒマなかったじゃないですか!。

節子 あ、ありがとう。バカだバカだと思つていたけど、私は、いい生徒達を持つた…! 私は、幸せ者だ。

カコ (アキを見て) あとは、あれか!。
包みをいっただん机に置き、生徒達の手を取る節子。これで終わってもいいんだぞさ!。

リカ (アキを見て) あとは、あれか!。
あら?

カコの視線の先には、ハロウィンの行列の一人が、台本を持って佇んでいる。他の奴等は、壁の後ろで一生懸命手招きとやっている。ゆっくり歩み寄る

カコ。不思議そうに見守る一同。

カコ 大丈夫。こわくないよ。(懐から棒付きキャンディを取り出す) キャンディ、食べる?

ハロ (台本を置き、キャンディを受け取る。につこり笑うと、急いで壁の奥へ消えていく)

モエ な、何? 今、何してたんすか!?

カコ (台本を拾いあげる) さあ、何でしょうね。

アキ あー、うめえなコレ!

一同 ええつ!?

皆が見ると、泣いていたはずのアキが、あぐらかいて節子に捧げられたはずの包みを勝手に開いてケーキを食っている。

タケコ あんた、何勝手に食べてんのよ!?

アキ ああ? そら目の前に食いもんがあれば食うだろが。何か文句あるか?

タケコ あるに決まつてるでしょ! それは、私たちが先生のために…!

モエ 師匠! 元に戻つたんすね! 良かったつす!

アキ 師匠じゃねえって、何度言やわかるんだよ!

節子 私の、私のケーキ…。

リカ でもそれ、ワリカンだからね。ちゃんとお金払うんだよ。

タケコ 冗談じゃないわよ! あんたの為に買ってきたんじゃないんだから、全部南瓜が払いなさい!

アキ 何でだよ?

モエ 安心してください師匠! そのぐらい師匠の復活祭として、この私なんぼでも払わせていただきます!

カコ 復活祭は春。今日はハロウィン。

節子 みくなくみくうりうり! 冗談じゃないわよ! 私のケーキ、返しなさいつてば! 出せ! 出さんかい!!

アキ 無茶言うなよ。

節子 だったら教室の後片付け、一人で全部やってもらいますからね! あ、あと、補習とか便所掃除とか、その他思いつく限りの罰を受けてもらいますからね!

アキ (脚立に登る) わーっつたよ! やればいいんだろ、やれば!

節子 何ですかその態度は!?! 全然反省してないじゃないの!!

カコ まーまー、先生には特別に、アメ一個めぐんであげるから。

リカ まーこのへんから曲かなあ。

モエ なあ、モエ。何すか、師匠?

アキ 何すか、師匠?

アキ お前の言ってたアレな、俺、ちよつとやってみようかな。
モエ ええ、マジっすか!?

アキ 俺は俺。それ以外にはなれっこねえ。でも、変わろうと思えば変わるかも
知れないかな、なんてちよつと思ったりして。

リカ かぼちゃんたら、何、お姫様キヤラに目覚めちゃったわけ？
タケコ ばかばかしい！あんたがお姫様になれるわけないでしょ。

カキ そんなこと言っちゃつていいのかしら？だってこれって(こによこによ)
アキ えー!?口が悪くて手も早いでしょうもなくじゃ馬の姫が魔王を倒すた
めに伝説の武器を求めて修行の旅に出る話!?

タケコ そんなことだろうと思ったわ。

モエ だから言つたじゃないですか！師匠にびつたりだつて！
モエ、てめえ、俺のことなんだと思つてやがんだ!?

アキ モエは、今の師匠のままで、もう全然大好きっす！
ふざけんああ！やつばやめ。やめだあ！

アリカ かぼちゃん、それはずるいつて。男に二言はないんでしょ？
だから、俺は女だ！

カキ 「雨降つて地固まる」あるいは、「二元の黙阿弥」かしらね。
後ろにハロウインの行列たちが現れる。アメをしやぶつている。

ハロウイン? あーあ、僕たち、いたずらのつもりが、何かいいことしちゃつたみたくない?
ハロウイン? ま、いんじゃない?気にしない気にしない。

ハロウインの行列たち、踊りながら去つてゆく。一人見送るカキ。アキはとい
うと、脚立(はムリかなあ)を振り上げながら、モエを追い回していました。

あと、混乱のうちに幕です、たぶん。カーテンコールはやりたいたいけどねー。

ちよつと

ENDING THEME 『Hello, Wind ~太陽の^{きん}黄金の南^{かぼちや}瓜~』
LYRIC&SONG むらかみ feat: 初音ミク

♪あなたに届け 私のキモチ

1. 街がオレンジに染まり 私向きの風が吹く
黒い翼広げ あなたへと翔んでゆけ
恋の神様なん？ いないと思つた神無日
霜月の前に一度だけ 私にチャンス下さい
Hello, Wind お菓子あげる
夢でもイタズラでもいい

Hello, Hello 今日はハロウイン 太陽の^{きん}黄金の南^{かぼちや}瓜

2. 月が白く笑う 隣には 愛の女神
雲のヴェール脱いで 今明かす ホントの私
いつも生意気ばかり 素直じゃなかった ごメンナサイ
皮は固いけど中は甘く熟れた南^{かぼちや}瓜
Hello, Wind おかし(ない)
これでも私は真剣なの!
Hello, Hello 今日はハロウイン 運命の^{きん}黄金の南^{かぼちや}瓜
Hello, Wind お菓子あげる
夢でもイタズラでもいい

Hello, Hello 今日はハロウイン 太陽の^{きん}黄金の南^{かぼちや}瓜
運命の^{ひと}男性はあなた 太陽の^{きん}黄金の南^{かぼちや}瓜